



信太の森ニュース

No. 25

2017年3月6日



1月の惣ヶ池湿地奥の広場は落ち葉のじゅうたん。側の池にはカワセミがよくやってきます。

2月下旬、信太山丘陵のフキノトウは既に出て、ニホンアカガエルの産卵、カスミサシヨウウオの産卵も順調に進んでいるのに、ウグイスの初音がなかなか聴けませんでした。

例年、2月24、5日頃には聴けたのですが、今シーズンは28日に惣ヶ池湿地でやっと聴くことができました。ウグイスの初音を聴くと待ち遠しかった春がもうそこまでやってきたという感じがします。

上の写真は、惣ヶ池湿地の奥の広場にアベ

マキ、コナラの落ち葉が全体に積もった1月の風景です。この広場には、昨年の秋頃から2歳から4歳くらいまでの3、4人の子どもが週に3、4回やって来て、この落ち葉の上で弁当を広げ、落ち葉に埋もれたり、駆け回り、2時間近く遊んで帰ります。

あるNPOが運営している無認可保育所の子どもたちで、自然の中で遊ばせることを方針にしているそうで、この広場は子どもたちの賑やかな声が響き渡っています。

NPO法人 信太の森FANクラブ

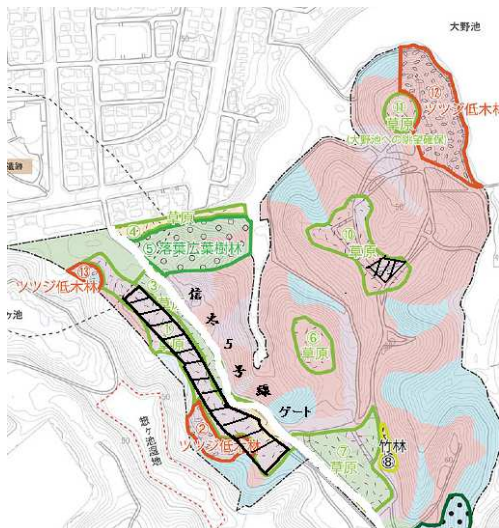
事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202

電話 0725-45-7357

E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

里山自然公園予定地は今

秋以降、信太5号線西側の草地復元地は、新たに伸びたネザサを含め南から北まで（黒斜線部）と5号線東側中央の草地復元地の刈取りが済みました。



しかし、この刈りとしたネザサは、根を根絶しない限りこの春以降また伸びてきます。この調子でいくと「なんや、ネザサ運びばかりや！」と嫌気がさすことになるので、市に対してネザサの根掘りができるユンボ（機械）を入れるよう協議会の会議の中で要望してきました。

実際に人力で1㎡のネザサの根を掘ってみると4、50分かかります。そこから出てきたネザサの根っこは一抱えもあるほどでした。

この状況を市の職員にも見て貰い、協議会で要望したところ、一度にはできないが、来年度予算でその一部を確保するそうです。

この間、協議会運営委員会の会議の中では、園路とトイレ、吾妻屋の配置、管理棟の位置とその規模などが話し合われてきました。

管理棟については、基本構想段階で候補地が二ヶ所になっていましたが、私たちが要望していた団地と接する北側に配置し、その規模は信太の森ふるさと館と同程度の大きさと

いうことで話が進んでいます。

管理棟の駐車場については、アラカシ林を活かした樹陰の駐車場が検討されています。

秋以降、里山講座も3回開催されましたが、今後は座学だけでなく、実践講座も取り入れる方向で話が進められています。



公園協議会の安全講習

危惧種シソクサの種採取に成功

2000年大阪府レッド・データで絶滅となっていたシソクサが、惣ヶ池湿地で埋土種子が芽吹いて復活し、毎年花を咲かせていたことはみなさんご承知のことです。

復活したことから「大阪府レッド・リスト2014」では絶滅から絶滅危惧I類となりました。

ところが、絶滅危惧I類にリストアップされた途端にその姿を見ることができず、再度絶滅したかと思われました。

シソクサが多年草であれば心配はないのですが、一年草でありその種子があまりにも小さいため、大雨などで流され地下水路に入ってしまうと芽を出すことは不可能になります。

今期はなんとかシソクサを探し当て、その種子を採取して絶滅を食い止めようと思っていたところ、運よく惣ヶ池湿地のシソクサをよく知る人と出会い、その人と一緒に探してみましたところ3株が見つかりました。

既に花は終わり、種を熟成させている最中



種子の熟成を待つシソクサ

の株で、水が地下に抜けてしまうすぐ側で見つかりました。今期見逃していれば、地下水路に種子は流がされ、恐らく絶滅となったことでしょう。早速3株とも土ごと持ち帰り、プランタに水を入れ、その中で種子が熟成するのを待って種子採取に成功しました。

2月に生息地内の別の場所に浅い水辺を作り、そこに採取した種子の1/3を撒きました。なんとか発芽してほしいものです。

今年もカスミサンショウウオ卵囊調査

2月26日はFANクラブの定例観察会の日でしたが、今年もFANクラブ、大阪みどりのトラスト協会、公園協議会の合同開催によるカスミサンショウウオの卵囊調査を目的とした観察会を実施しました。

当日、市有地西広場に集まった参加者数は45名。ネザサの刈取りが済んだ広場と惣ヶ池湿地を案内した後、湿地奥の広場に集まり、カスミサンショウウオの卵囊の探し方が説明され、広場付近の湿地で卵囊探しをはじめました。

家族連れの親子もあれば、両棲類に詳しい若者や年配者も湿地に入り卵囊を探していました。

今年は幸先良く調査開始5分もしないうちに最初の卵囊が見つかり、それに続いて同じ場所で8個の卵囊が見つかりました。別の場所でも3個が見つかり、この日は合計11個



11個も見つかった卵囊

の卵囊が見つかりました。

卵囊ゼロの年が2年続き、昨年が3個であったことからすれば卵囊が増えていることと喜ばしいことで、参加者も感激していました。

調査終了後、両棲類に詳しいという初参加の青年にカスミサンショウウオの生態について説明して貰い、卵囊調査を終了しました。

惣ヶ池湿地でシイタケ植菌

カスミサンショウウオの卵囊調査終了後、昼食を摂り、シイタケの植菌希望者と野鳥観察希望者の二グループに分かれて、FANクラブ会員が観察案内と植菌指導をしました。

野鳥観察グループは、殆どがトラスト協会関係者6名で、惣ヶ池を一周してオオバン、ミサゴなどが観察され、シイタケ植菌グループは11名で、コナラのほだ木8本にドリル



いつ出てくるかとシイタケの植菌を楽しむ参加者で穴をあけ、シイタケ菌の駒を打ち込み、植菌作業を楽しんでいました。

惣ヶ池湿地でシイタケの植菌を行うのは6、

7年振りのことです。

保全活動について

花田茂義さんの講演から

信太山市有地でいま行われようとしていることに関わって、保全ということをどういう風に考えたらいいのかという、話題提供ということで報告します。

和泉市検討委員会で保全と活用ということで揺るぎのない結論を出しました。それに向けて我々の側が臨んでいけるかが問われています。

信太山丘陵の自然は時代の中で変わってきています。里山的環境を保持するとはどんなことだろうか。私の思いは、里地、里山を含めて、そこで人々の生活、歴史、文化を含んで里山の環境を維持しているというものではないかと思っています。里山的環境は里山的自然環境と言っているのだと理解しています。

信太山がたどってきた環境は、陸軍、自衛隊の演習場であったのが大きな意味を持っていました。民有地が、田畑があった。人との関わりの歴史があった。この自然を残していくとしたらどうしたらいいのかということです。軍隊や農家が果たした役割を誰かがしなければならぬ。手を加えないことには、ここは荒れ果てていきます。そのスピードは速いと思います。検討委員会の理念ではないが、行政が担い市民が農民や軍隊に代わってここに関わって行く、ということがこれからやらなければならないことです。

貴重な自然環境を保持していくということは、多様な生物が棲める環境を守って行くということですね。それに自然と触れ合って、自然の中から受け取るものがある。心が癒されたり、緑に接することなど役割を果たしています。

軍隊や農民に代わって、そこを守っていくとはどういうことか。保全というのは現状を維持するということだが、今の状態の信太山を残すことがいいことかということ、けしてそうではない。少なくとも20年～30年前の状態に戻す。せめて昭和の時代までバックするぐらいの目標が必要なのではないかと思う。

これをやろうとすると、思い付きだけではなく、計画を立ててやっていく必要があると思う。それと変化がどう変わったかということを確認したり評価していきながら次の計画を立てていく。難しい言葉で順応的管理と

いうようですが、そういうことが大事ではないかと思っています。

小さな湿地は脆弱な環境にあり、自我流にただ草をかれればいはいけない。そこは専門家なり研究者に知恵を借りながら一つ一つ作業をしていかなければいけないと思います。湿地については限定されたもので作業をするという慎重さがあっていいのではないかと思う。

草地ですが、これは信太山の特性の一つで、20年、30年前に戻したいと思っているが、2m近い笹が茂っている。自衛隊が植樹したものをもっと整理して草地は草地として残すという方向で求めるべきでないかと思っています。

いろんな雑木が生えてきている。それは間引いたり、刈り取ったりして風通しをよく明るい林にしていく必要がある。ただ、どれを切ってどれを残すかは十分検討しなければならない。

こんなことの積み重ねを1年2年でなくて長い期間を掛けて見つめながらやる必要があります。お願いしたいのは草を刈ったり、枝を払ったりという活動に是非参加していただきたいと思っています。(2013年)

お知らせ

1. **総会と花田さんを偲ぶ会 5月7日**
総会：午前中 偲ぶ会：12時から
2. **惣ヶ池湿地の保全作業日 4月から変更**
偶数月：第2土曜日を第2日曜日に
奇数月：第2水曜日(変更なし)

編集後記

ニュース発行が遅くなってしまいました。公園協議会の保全作業のこと、惣ヶ池湿地の保全作業のこと以外に書くことがなく、なにをみなさんにお知らせしようかと悩みながら印刷機の故障をいいことにそのままさぼってしまいました。

今年度の発行は1号のみ。なんとか2号目を出して、最近の状況をみなさんにお知らせしようと重い腰を上げることにしました。

ニュース発行を継続するには、みなさんのご協力が必要です。信太山丘陵のことに限らず投稿をお願いします。